

変わりゆくフランクフルト・モーターショー

自動車メーカーの出展が減少するモーターショー

ドイツのフランクフルトで2年に1度開催される世界最大級のフランクフルト・モーターショー2019（IAA 2019）が9月10日に開幕し22日までおこなわれました。

【フランクフルト・モーターショー2019の様子】



今回で68回目となるフランクフルト・モーターショーですが、世界の自動車メーカーがニューモデルやコンセプトカーを派手に展示する従来のイメージとは異なるモーターショーとなりました。

まず、世界の自動車メーカーの出展自体が大きく減少しました。アメリカのGM、フランスのPSA（プジョー・シトロエン）、イタリアのFCA（フィアット、クライスラー、アルファロメオ、マセラティ、フェラーリ）などが出展を見送っています。トヨタ、日産、三菱マツダ、スバル、スズキは軒並み出展せず、日系ではホンダのみの出展となりました。

地元ドイツの自動車メーカーも、BMWが出展スペースを2年前に比べ3分の1に縮小、ダイムラーもディスプレイを簡素化し、費用を大きく削減させたことが伺える展示でした。

SNS（交流サイト）が普及し消費者の情報入手方法が多様化、大規模なモーターショーに出展する費用対効果が見込みにくく、メーカー各社は独自に試乗会やイベントを開催し消費者に遡及する方法に転換してきています。

モーターショーでEVシフトが鮮明に

また、会場内では「エンジン音が聞こえなくなって寂しい」との声も聞かれました。会場に展示されている車両はほとんどがEV、当然ながらエンジン音はありません。

【フォルクスワーゲンのコンパクトEV「ID.3」】



フォルクスワーゲン（VW）グループは最大の展示スペースを確保し、注目のコンパクトEV「ID.3」を大々的に披露、ポルシェも初のEV「タイカン」が大きな注目を集めていました。

【ホンダはコンパクトEV「Honda e」の量産モデルを発表】



日系メーカー唯一の出展となったホンダは、コンパクトEVである「Honda e」量産モデルを世界初公開しました。ホンダは24日、2021年までに主力市場の欧州でディーゼル車の販売から撤退し、ハイブリッド車やEVなどの電動車に経営資源を集中すると発表しました。日欧の自動車メーカーは相次ぎ開発の中止を表明し、脱ディーゼル化が加速しています。

目を見張る勢いの中国新興メーカー

日欧米各国の自動車メーカーが出展を控える中、中国の紅旗や BYTON などのメーカーの勢いは目を見張るものがありました。フォルクスワーゲンがコンパクト EV「ID.3」を、ホンダが「Honda e」を前面に押し出す中、重厚で威圧感のある大型車を展示していたことには少々驚きましたが実はこの大型車も EV でした。

【2020年に発売予定という中国紅旗のEV「E115」】



中国の勢いは自動車メーカーだけでなく、サプライヤーの出展の多さにも現れていました。

【中国のサプライヤーも数多く出展】



CASE ビジネスに異業種が続々参戦

もうひとつ特徴的だったのは、いわゆるCASE（コネクティティ、自動運転、シェアリング、電動化）関連の出展が非常に目立ったことです。5Gを活用したコネクテッドカーや自動運転市場への参入を目指すボーダフォン・オートモーティブが初めて出展したほか、マイクロソフトやIBMなどのテクノロジー企業も多数出展しました。

【ボーダフォンはコネクテッドカーや自動運転への参入を目指す】



【マイクロソフトなどのテクノロジー企業も多数参加】



まさに「100年に1度の自動車産業大変革期」を実感するフランクフルト・モーターショー2019でした。

以上

本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
 ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。
 本レポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
 本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
 本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。